

種山ヶ原は今④④

「種山ヶ原の夜」 宮沢賢治作品
舞台設定101年前(大正13年)
【9月2日】

胆江日日新聞の「遠近両用」(若林正人さん)の記事に注目。どうしても朝方天頂にある星座「スバル」を見ているところに心が行ってしまう。新聞を見て、舞台設定について、地区民にもう一つお知らせしなければならぬと気がつかせてくれた。

若林さんに感謝です。さすが賢治研究家。

**【9月3日】穂坂嘉内にハガキを
投函した日**

大正6年江刺郡から地質調査を依頼され、8月28日友人二人と江刺郡を訪れ、調査を続け、9月3日が伊手から種山ヶ原へ。盛街道を歩いて人首町へ。そして、穂坂嘉内にハガキを米里郵便局(現郵便局は北へ200m)で投函した。その郵便局は既に個人の家となっている。これらの資料は、現米里郵便局の局長さんが展示している。

9月2日の若林さんの記事



種山ヶ原の麓でも稲刈りが始まりました。9月1日



千田正一さん一家



菊池義夫さんの田んぼ

人首カトリック教会の

「アンジェラスの鐘」を鳴らし続けよう！ 120年目
宮沢賢治も何度も聴いたであろう「アンジェラスの鐘」

明治23年(1905年)に教会堂が建設され、フランス製の「アンジェラスの鐘」が鳴り始めたのが明治38年。それ以降戦争等色々なことがありました。終戦

間近の頃は兵器を作るための供出を逃れたアンジェラスの鐘を渡部さんの奥さんが草叢から見つけ、戦後初めて昭和 20 年に鳴り始めました。戦後教会を守って来た渡部さん夫妻、3 人のシスター、中山昇幸さん、上町子供会・遊学スクールの子ども達に感謝したい。



昭和 38 年 テレジア欠畑美奈子氏
一本杉に「聖母の像」作製
昭和 57 年 人首教会 100 年祭
昭和 58 年 渡部さんご夫妻が介護施設に
中山昇幸さんが数年前から
教会管理を
平成 1 年～5 年上町子供会が鐘を鳴らす
平成 5 年 シスター3 名常駐
平成 22 年 教会解体
平成 23 年 放課後スクールの子供達
～27 年 鐘を鳴らす
「聖母像」3・11 地震で崩壊
平成 25 年 教会跡地整備作業完了式典



人首カトリック教会の思い出

戦後間もない頃、日曜日の 9 時になると信者、子ども達がキリスト教の礼拝に教会に集まった。狭い礼拝堂がいっぱいになるほどでした。讃美歌を歌い、聖書を読み、祈り、アーメンと唱える。最後に神父さんのお話を聞く。ほとんどの子ども達は仏教徒であるにもかかわらず、どの子もきちんとできるようになっていた。讃美歌は大きくなってから非常に役立った。道徳も教会で身についたように思う。



日曜日に教会に行くようになった理由は、戦後のことでもあり、家にいれば手伝わされる。時々外車で外国人の神父さんが来る。外国の話が聞けたり、幻灯機で写真が見れる。お菓子がもらえる時もある。私達のねらいは、後の方である。

クリスマスが近づいてくると、クリスマス会が開かれる。この時は讃美歌やお祈りが長い、しかしお菓子がもらえる。お楽しみのゲームはトランプと行って行ったが、何故かすごろくや福笑いだった。日本人のことを気遣ったのだろうか。

昔はお館山で鳴るサイレン・お寺の鐘と同じように朝・昼・晩と鳴っていた。今

はサイレンから地区センターのチャイムに替わった。しかし、これまで通り夕方 5 時、これが米里の「音の風景」の一つでもあり、鳴らし続けようと思う。